

指針第2号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,562	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素排 換出 算） 量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		4,562

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂	令和 4 年度	t-CO ₂	令和 5 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂
温室効果ガス 総 排 出 量										
削減率（対 基準年度）	/		%	%	%	%	%	%	%	%
温室効果ガス みなし総排出量	/				t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）	/				%	%	%	%	%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度	/ t	令和 6 年度	/ t	令和 4 年度	/ t	令和 5 年度	/ t	令和 6 年度	/ t
原単位あたりの 排 出 量	0.5874	/ t	0.5698	/ t	0.5894	/ t	0.6937	/ t	0.6975	/ t
削減率（対 基準年度）	/		3.0 %	▲ 0.3 %	▲ 18.1 %	▲ 18.7 %				
原単位あたりの みなし排出量	/				/ t	/ t	/ t	/ t	/ t	/ t
削減率（対 基準年度）	/				%	%	%	%	%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

非常に達成度が低い。昨年度より、焼成重量伸びが悪い。基準年である令和3年度と比較して前年(R5)82.6%、今年度(R6)75.5%とさらに減少した。今年度品質不良が大幅に改善しているが、仕事量減の影響が大きく達成率が低い結果であった。仕事量に左右されないよう地道にエネルギー使用量を下げる改善を積み重ねていきたい。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

指針第2号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・高効率機器への更新	プレスブレーキ 油圧駆動からサボモーター式に変更	2015～2025 68KL/年	計画中のものは完了。
省エネルギー・省資源の行動の実践・高効率機器への更新	焼成炉用ファン省エネタイプに変更（2炉合計70本）	2022～2025 70KL/年	B4炉1ファン変更済。 今年度B4炉-5ファン6本、B2炉-4ファン7本実施予定。順番に計画的に実施予定。
省エネルギー・省資源の行動の実践・高効率機器への更新	ブラスファンモーター インバーター設置	2022～2025	随時計画中。効果が大きい設備の更新は実施した。
省エネルギー・省資源の行動の実践・高効率機器への更新	ミル機高効率モーターへの更新	2019～2025	随時計画中。
省エネルギー・省資源の行動の実践・高効率機器への更新	井水ポンプ 回転数制御	2019-2025	随時計画中。
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	・退社時間を早め、事務所の電力使用量を下げる。		随時計画中。

指針第2号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

場内蛍光灯LED化かつ間引き、スイッチ切り忘れ等が目立つエリアでは人感センサータイプに変更。負荷見合いの休日対応および稼働ラインの停止、加工品目のライン変更による集中生産等は、日々状況に合わせて実施している。換気扇インバーター化やガス出力変更を人感センサーと連動して実施予定。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

- ・エレベーターの利用を控える。荷物運搬時以外の利用を自粛する。
- ・退社時間を早め、無駄な残業をしない。